

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

ナモの寺 検索

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第327号
平成23年1月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp

【出典】『観音経』「具一切功德、慈眼視衆生、福聚海無量、是故應頂禮」

福聚海無量…福徳が海のように広大に集まること。

福寿海無量…「福聚海無量」を改変したもの。

福寿…幸福と長生き。また、幸福で長命なこと。



南無観世音菩薩
南無観世音菩薩

観世音菩薩は
三十三身に變化して
悩み苦しむ人を
救い下さるといふ

気付かれよ
今まさに
眼前にいる
観世音に

慈母の姿あり
悲母の姿あり

はた
夜叉羅刹
阿修羅の姿あり

観世音を念ぜよ
観世音を念ぜよ

福寿海無量

覚えていらつしやいますでしょうか。昭和五十一年一月三十一日、男児二人、女児三人の日本初の五つ子が誕生しました。その時、名付け親となったのは、京都清水寺の貫主、大西良慶師（当時百歳）でした。大西貫主は、五人の子供は仏の授かりものであるとして、『観音経』の中の「福聚海無量（聚は寿・海は洋に変換）」から、長男は福太郎、長女は寿子、一男・二女妙子（妙法）、三女智子（般若智慧）と名づけられました。もう、あれから、三十五年も経つのですね。

出典である『観音経』は、正しくは『妙法蓮華経』第八卷第二十五品の「観世音菩薩普門品」、単に『普門品』ともいったりしますが、いわゆる『法華経』の観世

音菩薩について説かれている部分を別出して一巻としたものであります。その中の「福聚海無量」という語は、観世音菩薩の功德が、海のように広大であることを讃えたことばであり、「福寿海無量」は、さらに長寿の功德も加え、より幸福の功德を願う、年頭の言祝ぐことばとして相応しく、今回選ばせていただきました。

観世音菩薩、あるいは観音菩薩は、サンスクリット語では、アバロキタ（観）とスバラ（音）の合成語、アバロキタスバラといえます。この語は、悩める世間の人々の音声を観ずるものという意味であります。また、観自在菩薩ともいわれますが、それはサンスクリット語のアバロキテーシュバラ、すなわちアバロキタ（観）とイーシュバラ（自在）との合成語

で、衆生の苦悩を観ずること自在なるものという意味であります。つまり、観音様は、悩めるわれわれ衆生の声を聞き届けてくださる、慈悲深い菩薩様であるということです。仏典に、次のような話が伝わっております。

昔、インドに、早離、速離という兄弟がいました。二人の母親は早くに亡くなって、父は再婚し、継母がやってきました。その継母は、父親が仕事に出ていない時、二人には冷たく辛く当たりました。それでも、幼い二人は励ましかつて、健気に耐えていました。

ある年、飢饉になり、父親は遠く出稼ぎに行きました。ついには食べる物がなくなり、口減らしのため、継母は「お父さんの所へ行こう」と騙して、二人を小舟に乗せ

て、小島に連れ出しました。

継母は「この島の向こうにお父さんがいるから探して連れておいで」と、二人を降ろしました。二人は喜んで、島中を探しましたが、居るはずがありません。疲れ切つて戻つてみると、そこには、舟も継母の姿もありませんでした。

二人は、初めて継母に捨てられたことに気づき、悲嘆に暮れ涙を流します。口にするものは何一つなく、弟は、「兄さん、僕たちはどうしてこんなに辛い目に遭わなくてはならないの。今度生まれ変わったら、恨みを晴らし復讐してやるんだ」と、息も絶え絶えに悔しい思いを訴えるのでした。

すると、兄は「どんなに辛くても、恨むのだけはよそう。それより、人が味わえないことを味わうことができたことを喜ぼう。今度

生まれ変わることができたなら、速離ソクリと一緒になつて、僕たちが体験したことを生かし、同じように辛い思いをしている人たちの声を聞いてあげようじゃないか」と優しくいきました。

それを聞いて弟は、「そうだったね。兄さんありがとう。僕もきつと約束するよ」とにつこり微笑み、息を引き取りました。そして、その後を追うように、兄の早離ソウリも静かに息絶えたのでした。

それから、二人の死後、兄の早離ソウリは「観世音菩薩」になり、弟の速離ソクリは「勢至菩薩」となったということです。

さて、私たち現代人は、観世音菩薩がいくら慈悲深い菩薩様だからといって、実際にその功德を授からない限り信じ切れないということかもしれません。また、観世音菩

薩が三十三身に變化へんげして衆生を救済するといふけれど、そんなことはあり得ないと思うかもしれません。しかし、早離ソウリが観世音菩薩となれたのは、不幸を恨んだり悲しんだりするのではなく、むしろ良き体験と受け止め、それを生かそうとしたからでした。

そう、観世音の功德が、海のように広大であるというその意味は、今受けている苦しい状況を恨み、ただ我が身の幸福を願い、拝めば功德が棚ぼた式に落ちてくるようなものではなく、もっと深く広く、深遠なものであるということです。我が身を苦しめ、困らせているその人こそが、三十三身に變化へんげして、愚かな我が身を救わんがために現れたもうた観世音菩薩と気付いたとき、初めてその功德にあずかることができるのです。

平成二十三年度年回表

- ・ 一周忌 平成二十二年
- ・ 三回忌 平成二十一年
- ・ 七回忌 平成十七年
- ・ 十三回忌 平成十一年
- ・ 十七回忌 平成七年
- ・ 二十三回忌 平成元年
- ・ 二十七回忌 昭和六十年
- ・ 三十三回忌 昭和五十四年
- ・ 三十七回忌 昭和五十年
- ・ 四十三回忌 昭和四十四年
- ・ 四十七回忌 昭和四十年
- ・ 五十回忌 昭和三十七年

◎破魔矢

初詣には欠かせない縁起物が、この「破魔矢」。鏑がついたものや、錦の短冊がついたものなど、さまざまな種類があるが、この語の起源をたどってみると、神社ならぬお寺（仏教）にかかわっているというからおもしろい。

仏教では、悪魔を破砕し、煩惱を断つことを「破魔」と呼んだ。

これが後に、悪魔をやっつける武器である矢に冠せられ、破魔矢は



魔除けとして日本で珍重されるようになったのである。

しかし別の話では、これは単なる子供のあそび道具で、わらや縄で作った輪の的を射るのが目的だったという考えもある。これがやがて、男の子の成長を祝福するお飾りとなり、江戸から明治にかけては、今以上に珍重されたとか。矢は弓がなかなければ射られない。だから、当然「破魔弓」の語もあるのはいうまでもない。

（『仏教のことば』早わかり事典）

雑記



▼謹賀新年

旧年中はお世話になりました。本年も宜しくお願いいたします。今年卯年、ウサギのようにねはねの飛躍の年にしたいですね。

ただ、仏教では「精進」の反対「放逸」を戒めています。逸の字は兔が走っているという意で、我が儘なウサギが跳ね出さぬよう、自製の柵は厳重に……。

▼去年今年

一夜明ければ昨日は去年。そして、今日は今年。夜から朝、何ら変わらぬ時の流れではありませんが、やはり、元日には特別な感慨深いものがあります。

◆頂いた生命をつなぐ

去年今年 沐魚